

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈中5〉	いわき市立中央台南中学校
〈実施日〉	平成28年3月	
〈実施教科等〉	① 理科 2 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他 ()	
〈実施内容〉	※白河市立白河中央中学校にて実施 3学年対象	
	(1) 事前に教師向けの放射線講座を実施	
	講師として徳島大学工学部の放射線研究チームに来ていただき、放射線の有用性やリスク教育、放射線が人体に与える影響等を講義して頂いた。そこでは、実際に霧箱を用いた放射線発生装置や、放射線測定装置「はかるくん」を用いた放射線測定など、授業で使える資料を提供頂いた。	
	→この講座を受けて、授業の展開を考えた。	
	(2) 授業の実践例	
	〈導入〉授業前に簡単なレディネスアンケートを実施した。中学三年生ということで、放射線についての授業は小学校から何度か経験していることから、ある程度の知識は備わっていたため、放射線に関して知っている知識を自由に出させ、その言葉を用いて「放射線とは何か？」を討論させてみた。	
	〈展開〉放射線を知るということを本時の目的とし、放射線の基礎知識を、映像資料をもとに学習。その後、徳島大学から提供していただいた簡易霧箱や「はかるくん」を用いて放射線に触れる。	
	〈まとめ〉授業で学習した知識を用いて、放射線について自由に討論させる。原発事故から、危険なものとして認識していた子どもたちも、その有用性に気付き、今後放射線とどのようにつき合っていくかを論点に話をしていた。子どもたちの言葉を用いてまとめをし、終了。	
〈成果〉	自由に話をさせることで、言語活動も充実し、中身の濃い授業を展開できた。また、放射線についての簡易実験を行えることは、理科教科の利点であると感じた。実際に触れることで、より身近なものだと感じ取り、興味を持って学習することができた。	
〈課題〉	自由度をあげると、生徒の実態によって学習活動に差が見られてしまった。支援を要する生徒への対応が必要であったと感じた。そのような点では、総合的な学習の時間を理容師、徳島大学の方たちに、直接講座をしていただくことも面白いと感じた。ただし、内容は噛み砕かないと難しいと思われる。	
資料作成担当者職 (教諭) 氏名 (弓田一彰)	学校電話番号 (95-7011)	

